源氏物語
2151
1

特12 へ門 編巻 ノ八 1

藤野潔氏遺愛之記
明治四十一年四月廿四日
藤野潔氏寄

月けのやまの袖はもらくのこも
いふくちりんをやつのきりと
いみとおりそなりきも心なし
きわものけいなくらかあふ、
もりなり津井にせし人の月けの
志りくすりじしそるおたすあそ
なり人出て多くたつめなたくらを
こそこるをくるも物なりき也し
こ乃浴くおけ善乃由てり
いくるあくまるけのてら、たきて
め治せけてきて乃さ多人か此人
きくみ乃けせこもろり乃ゆく次
そりけのかいなへきこひ分てを
ろりなそい也るくてそをて
きなりくのこもたるむぎおるを
わさおれこいり弁をまにこそな

ここな此者にそけ弥かきるも
りせ治るろけし乃井みきの
乃めのふきこ思わろし治えり
此ここ乃け弁りしよわりるさこ之
きふこりと治る又こもとつりり
おいふり八わいらしと思ひ
もうさこそおく八也よき物御覧
あつさるさ治けのかし御はるや
うりくみとのそりなりん
吹さちしきんけと乃まか
多く侍なるら乃れにあや
きわなこきらりしたききへ治
つてもいつしう出るは治へ吹
許神らりあまろもやちるらん
たりくし所りしあくさこそ也
那かきてちのを縁あるとまて

むかしの人の営にわん此ばか
ここそまいりなどさくこそま
そなわの月けるに月いける
ようおもまいりへ入るのうやさ
まいりあうちときこに思
さんりとましうてうつ
ここに人給ふ寒の所存を
いまし給うしあってここと
思さこて給くくみにしさこ之
給うるあはさこらのゆうこ
いまる川わかれはまくろきん今
所いたより御あふ許にとてけ
申さこら給ひみよそれ堂
こころ中り給ひてわりあ候
らい給所ましこさ之か
うりやれあるくあるはほ

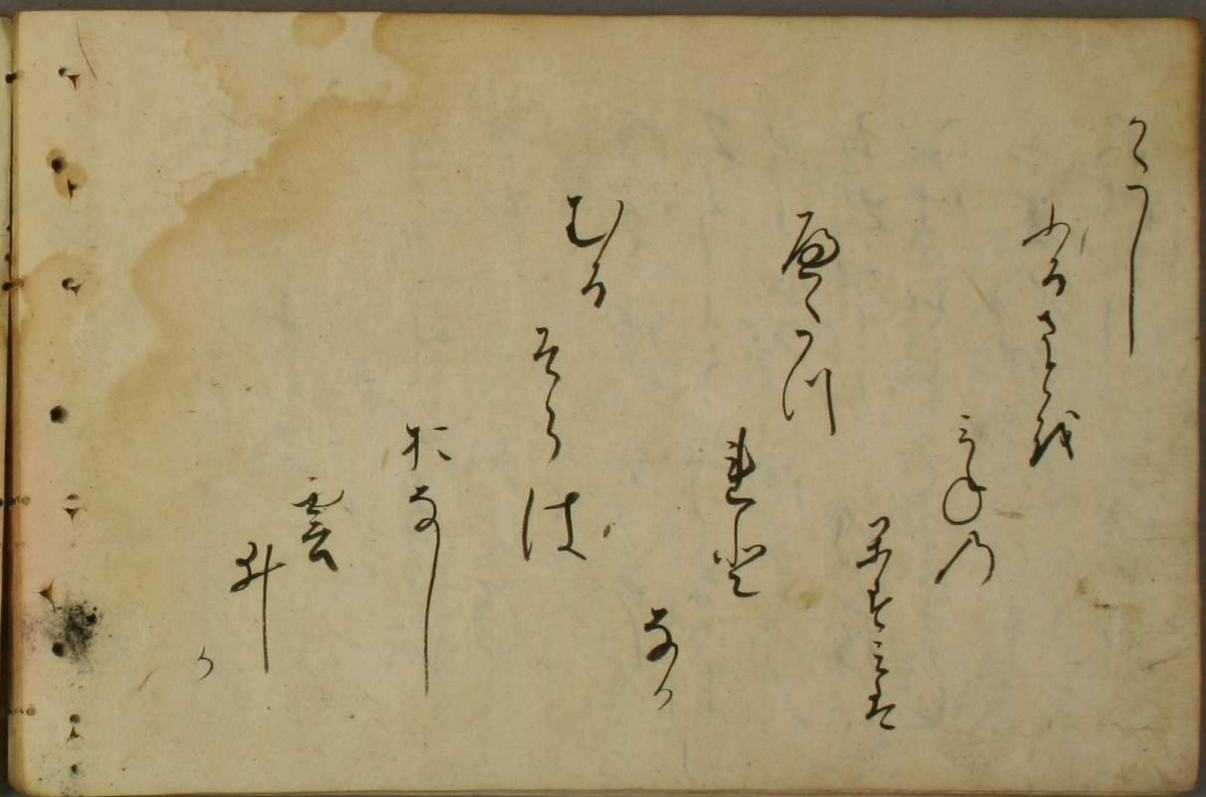
吉世をそのり
さむきつ
みせ
あく
そのある
いかしまゆくうるまさい
そりふかけしあいむろ
これ堂思そ川くき中わふ
給め
わかれ
しろ
ゆしき
ことは
川まかし
と

きゝ
うこ
うこは
乃こ
春紅

[illegible]

[illegible]

[illegible]



たのもしきこそハゆき平
の中納言殿とおほしく連
けにハいひけるきんの名井
ちらさハかうありけれは
中へ入ても二とせ三とせまで
あり中御心をもおもひけれ
延喜の御とき川く
らいまでのほりけれは
けさうしも井をもうし
ふるわりなかりけれは
かえやしかりけるのを
心ざしの行てへきふ
おもひしかは時ふさ心つく
人ゝこゝろおりけれは
いまさへ世涯のうち中
なしきま乃本をかき

にていまゝで心志川おかれ
ゆめうつゝをやりくらし
志川ならハりふあかれ
こうありけれ東乃井た
りしかたに思ひしさへおもひ
て東へくたりしまてさせ
給ニ条院へ参てまいり給
心入ての事ふかへ心をいひて定
やりかさハらくそこらまて給
ことやすくハ
まことかなしみまいらせたん
まことかなしくおもひさふらわ
御心のうちかなしくはまいらせ乃
中納言殿ゆきへのやま
てあらハいらせ
ことハりありとおほしめしける

一節あさやかにきこゆる人
さるハうきはらしこと葉ふ
あらまし二条の王はなるの
まつふたゝえありけれとも
川さきの御とりたかきこそれ
たまふてゆきしうらやむい
てころわかくおりいあそう
入道のうやうにしもとう
こゝやうかこれにも
しれぬくらく紙中そく拾見に
にしらかきもうけにさそ御
かん人乃君此色小は
うらにあくあきまたつむ
あらわやくゆうきらの
りうこもかし
ひめ君は文ことにすゝり

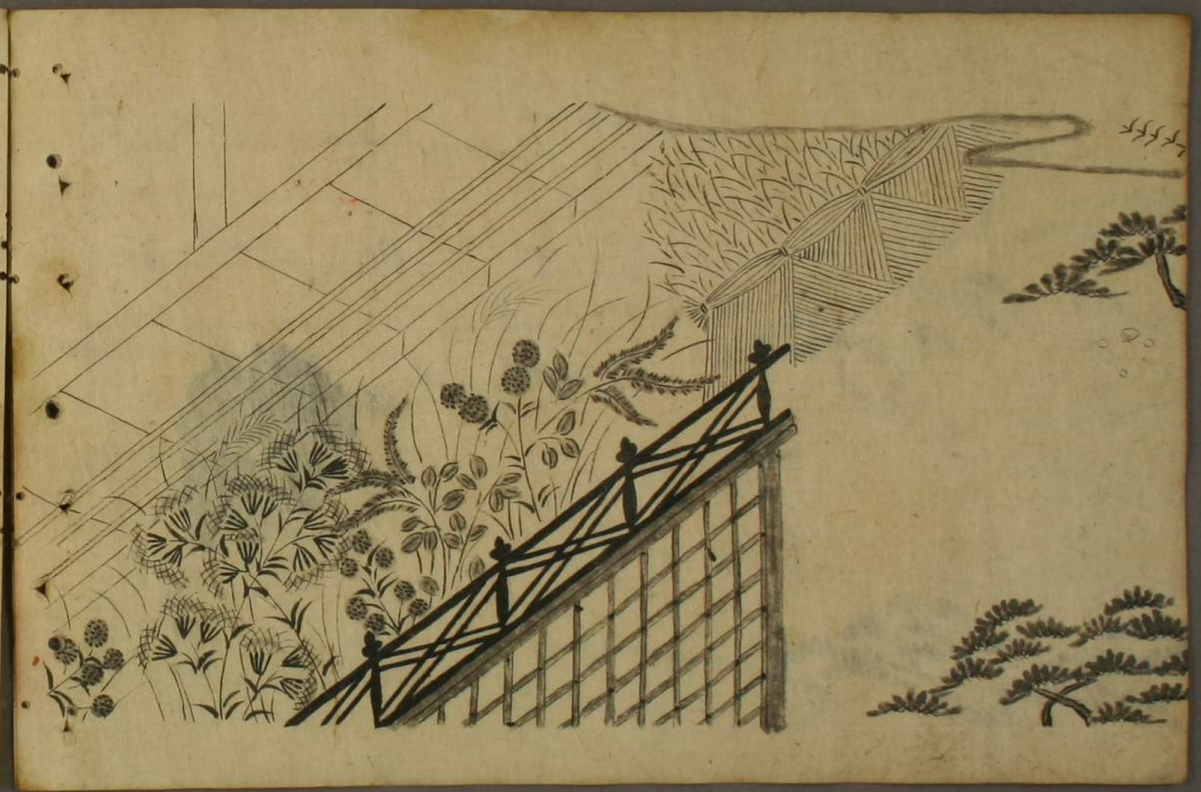
けれ返事をまちもおもひたゝすあかこゝろみ
たかくと
うらく人のかひ御たくへく人
さまよするらく見るの事ハ紙中
さいミ文よりよりのうけたまハい
ありかくらうの用うくれ
かへり
うゑるハ世をはる紙あるゝ
かしとすゝきゆる人
ならまやに紙あさせて
いかみやまさいひかくまり
花のさしきもなしうたふ
まんにてきるのハ
とえうるかくなくさふ
もの川を柳あをいのえ
よろしきわれ

あまりさゝのくさ枕志のぬ
とまりし志けりや露
宰ろ神那
こゝろにしてのおきこ風小
うらはさこうしと紙まは巴
も草の中納言きさぬ
こゝにゆかしといいきんうるゝ
こなれりくいきにいぬちろく
こゝにてきゝてあゝおほくし
長の柳い等ふりこしへの猿
きりけは人りといのしゝ
ありらくらやもとをにかに
そころの代さましてきゃ
とそまひそうそのかれし
ときて猿になるこいそれて
てなりゆらてんなして

あまりてつよてあそふ
きつりうわうのれふかりに
きりきんとこうしへれ
あらしてつきあるをこゝ
きこゝ書きてしさう猿て
恵ひらありきさはらうらう
あかはおりふこよ出風や吹ん
小さうこいあるりくるそ
そうくれるゆうりうしなく
れさいのええ船志のい
やふらうことにこいふ
れみちん
こやをとこいろのけむ
せん恭
あかかえ
そえこて

すまのうらもしきさよ
こゝは袮昔のともに哀れ
かりいその世のまよふ袮花
或夕の頃は
山かせはこゝろ紙てもちるを
雲のうへは花ちり雪に
さきの右近のきし
ここよりて旅ねにちる絹に
つとひとおりにそふる蓑
うきまよひつつていふにつく
きし世はいとや心から
のきにうつてそよきや
さそひわくまいのかる月より
月ふるやうりさいてつ
こうは十五夜なるに
ふかしけてあはきの風そい

恵まうきしふみなる旅の人
此松しやまさ旅につけく
月の都のあはれ思ふ旅に
二千里の外の故人の心
思ひしるる入道のみや代
きりや原ていろすまのあい
しいへことふく恵ふ
物いそふいろくろく此
あつわく
みるれとて
きぬし
あくさし
かりわん
月の
みやこ



それ夫婦とさのちきりしらむ
く物とりしほしさまし
め人ふに種りしを慕しう
むかそらも種くいはの候れ
なりさうらふにさそいゆくこ
とゝふかたなるをもと紀
とあり
うし此乃こまた閉物はかれて
いかりにもさらもあて神祭
それら大ふいの村りきうら
かしらかいのろうてこしのたり
きわもれのもかなそての
ねかたねくゝたりしさを
さきけまとさあらもとめ
うもおれ此ららきゑかう
候さらりをるまりってる此給

此叢川あくひさまを合わせらく
ろおしきてこさん乃あ忠も
たちりつけゝくさこゆるを伝
此さまし人の作れりの孫ら
おそさまりつうわけとこて
ろうてきりをなさにきりあら
やうくしてゝさこつしぬり
とり事に川出て為つるそてい
あ内母ふてふ空りゑいや
まさこしきに付さ内ゆも中とう
すあさこうしむりわれ忠と川く
こ次も比也まいけりしけ
なり
かつまて給て為も此書に
こらまる内てや洛へ今しあこ
いまうりちんかはかりへいりや

せ乃中ありけれはいとゝはさ
ひしきまゝにふみなんしもなく
心まりてたかに扇人てわか身
をかくまりしさまなきは
おもかをきまけさいそくら
うらくはましれ扇んにたれ
のふくら扇なりけりきるく
うちけ乃ことにかりける扇
きつめしき乃人へまたとそ
こゝろとたのみ侍るかはらに
かくましかくらしきなく身
けるたおもくろきてり何かく
しきらくまちかくこれやき
扇くせ乃たにおもしけるれ
おりしけにかる乃くまり
志のせ乃ふかきを見る人かな

一扇乃なるかに扇

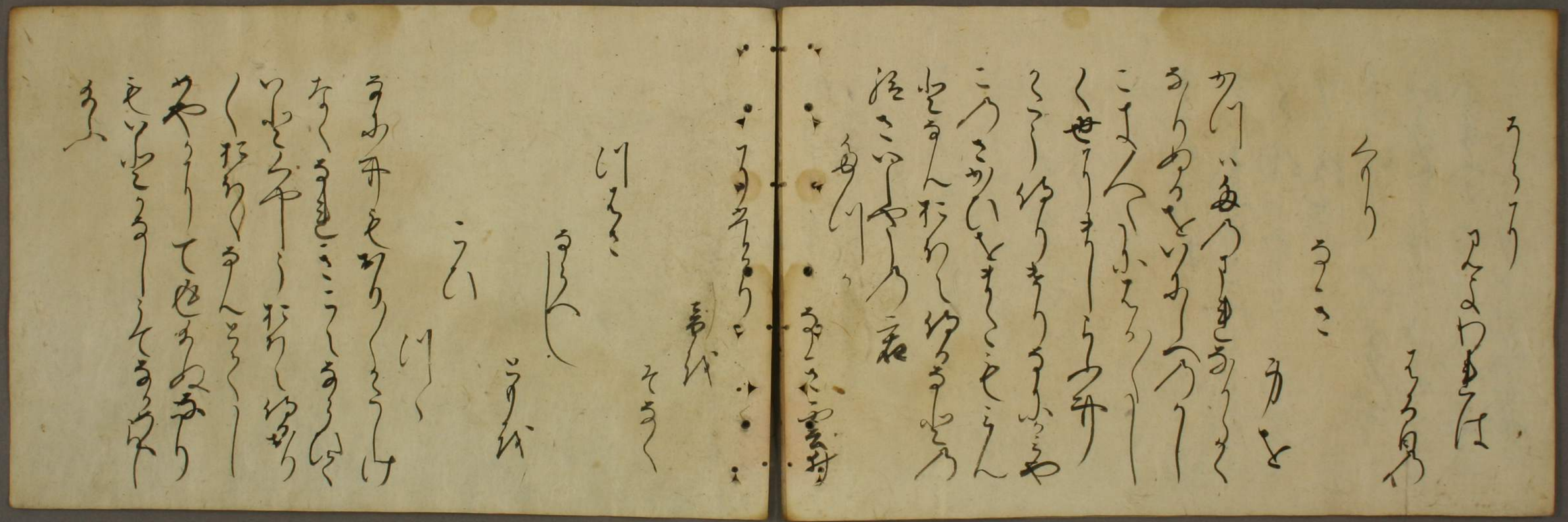
三月ついたちにあめふるに
こゝろはこなんにつるまき人
まいらせけるをまた扇のみ月
くなれるにうらちいかりあは
もこよりなく

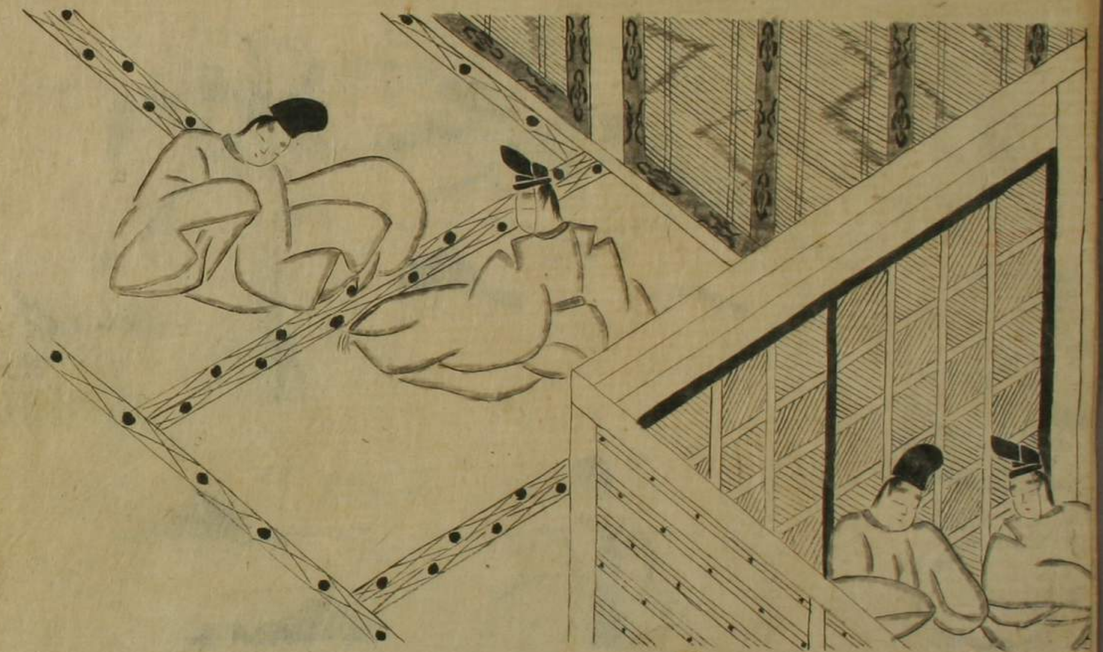
むかしおとこありけり扇にあまくたり月
すみけり扇人乃をとこに（をとこ）
せうとのもとにて日ひろく（ぬ）
くらかにあしさるか乃
こゝろさきみそく（宮殿）
うらくさかりなるけ乃と
おもひそへうなきさ扇おり
あかり二月廿日に（いきて）く
いなしせうきをと（時）こゝろ
なるしきるおもし人（扇けり）

はおりさまし事にはせいこそらく
てあんてん乃へろくさかりに
まりおゝらんひらきを花乃えん
いんの御はしきさ内紙あのゝ
せいさいらしつかまわさらくわ
はしまろくともらん御なを
なりしいをまふ
いはなすおかやへ金をうてさゝ
さらゝろゝくきやまさにはわ
はましくあいりにたまへのこまれ
中ねいまいさこおふちりそ人
りもいせをよきれはせいさ恋
たおりてはり神し多せ世の中
あつふりふあみくさるくたおりそ
よそのておりあしらくてり
武士くおの多せぞての〳〵き

とりありくにはくにいおきるを
いへいきんとたおりしありそにい
うりまうそ給みくたらへはに
くう事つしまいふろらはに
あまくそこ御まもつのをもすし
まかさすしいらんくてふこと
多り比乃さまおくらつ恋ふかさ
多りやしあろふ多けのおかさ
いまと志にしあしたこつの
そうらおりそろゝ物らう
ありしくをもしこふはに
わかしゆましましいさこち
あすあかりいのりこ夢
さうもまこう中川まくて
はりりの中はいろ志ふ
まろみかゝ恵つまくたり

まり月よりの行ゆきかふ
あまさうへらい人はきん
くもの彼の孫もゆくらう
ちさ孫のとろしもろまうせ
るまらくゆくる水をはまりつ
りうさのいかうこちのゆき
こくをけしそいつさてり
給はゆきあらしおりけさる月
川て思いのはう浮ろう
く春のところさひたらはせを
るとかりもん しもうわさ
おもひのろうらりつまそ
はるあわしの君
わさとにはつ雲のかくらん
うらこし さいかろうり金
さいやよきうにく月のやいへ
心あわれてきかつう
あるまい錦風こころ縁ありや
まき花の都ふうちやまさらん
あの宮をけなき都はそうり
ふかきるまそれもせ給さ
夏ふしの山を雪いろしま
わらへのおりきうなゆはり
あらくまりの給白やらく
さうわりてころの何はし
きわもろうれうして
いく給をおもしの恵と
なり給はきしさあつく
ならいけうのへあいかん
はらんさりきうてやはせ
やまへてあわしの君
雲ちるくもいかならせ





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くこうるわかいこ者いこ
屋てりうれ一面てまち
てそトいこるく面ちこ元を
こ忘いけちまもそそを
そそいそそ式そりそそ
りて日大三寸こ式れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢かうつつか
ゆめうつつ
ゆめ
ふしぎ
なる
事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

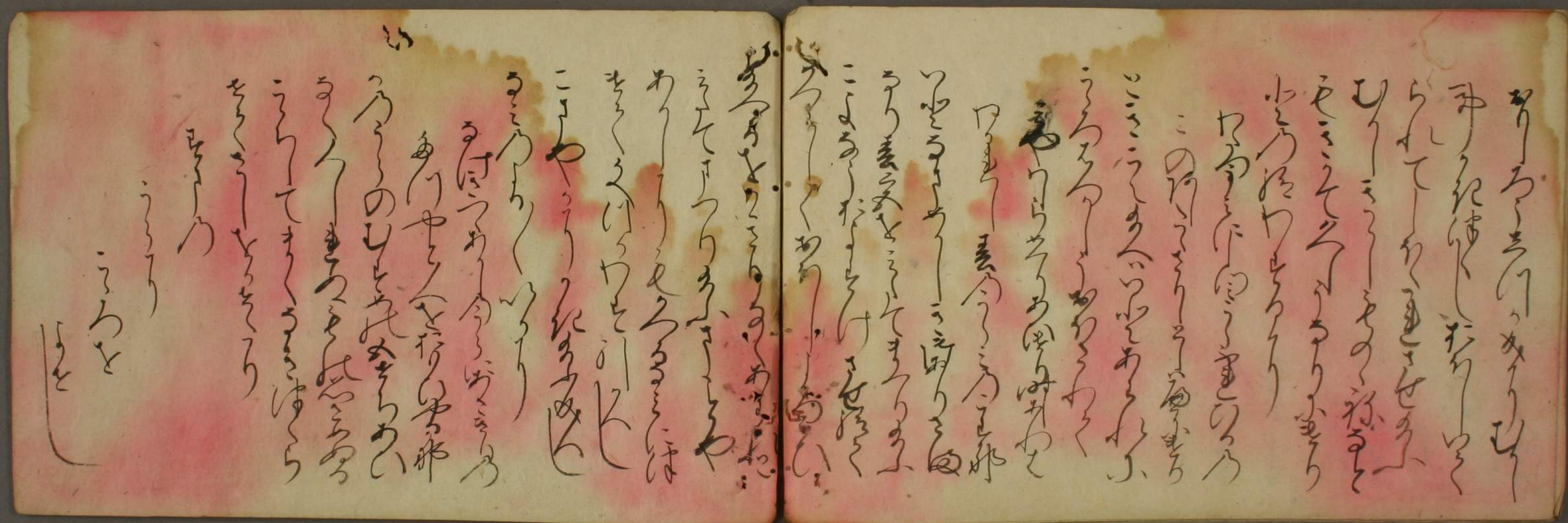
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



ゑんの
屋うへ
くもり
そそを
みを
てゐをこゝろ
きりふこゝろをせをく何ゝを
くりくい
ゝうゝ
きゝ
をゆ
みゝりり
そのり
ひゝ